

海岸の浸食状況その後の対策は



坂元 正春議員

冠水した原因は

坂元議員

今回、二度にわたる台風襲来で、大崎海岸すべて浜崖ができ、菱田海岸は高潮と重なり水田が冠水、民家が床上浸水し多大な被害が発生したが、

したことが最大の原因。

今後の台風襲来については予測はつかないが、当面、背後地の人家や農地を守るため、監視をしながら避難対策や防潮堤や樋門の効果を発揮できるように努める。国や県あらゆる機関の支援を求め検討を進めていく。

水田・畑の耕作不能地の面積は

坂元議員

最近、田畑の雑木竹林化した耕作不能地が目につく、町内のこうした水田・畑の面積は。また、今後どう対応する考えか。

元に戻すための費用援助はできないか。こうした状況は、農業の町・大崎町の問題とまらないか、町長の真意を聞いた。

持留川水域の今後は

坂元議員

ことで、畑も、ほ場整備事業の導入により荒廃地の解消をはかりたい。復元するための費用援助は考えていない。これから農業の町としてほ場整備事業を推進し、作付の集団化や農作業の効率化に最大限努力をする。

成8年で改修を完了し、完成以降は堤防を超えた氾濫は起きていない。異常気象で予想を超える集中豪雨が発生すれば万全とはいえないが、過去の降雨結果から見ても安全であると思う。

現在調査中

町長

現在、全筆調査を行っているが、平成13年度の遊休農地調査によると、畑で約28・3ha水田約6・4haとなっている。耕作不能面積は把握できていないが、近日、資料で示すことができると思っている。

最大限の努力を払う

町長

持留川の河川改修は平

気象変化で、集中的に時間雨量50ミリ 80ミリを記録するような雨で全国にいたる所で災害が発生しており、こうした洪水の危険性はあると思うが洪水対策は万全か。持留川が氾濫したら三文字地区の冠水は大丈夫なのか。排水は問題無いか。被害が出ない災害に強い街づくりのため、新たな排水溝の計画はないか。

成8年で改修を完了し、完成以降は堤防を超えた氾濫は起きていない。異常気象で予想を超える集中豪雨が発生すれば万全とはいえないが、過去の降雨結果から見ても安全であると思う。

三文字地区には、3本の都市下水路があり、それぞれ持留川に放流している。このうち、上三文字都市下水路で多雨時に冠水しているので、暗きよの改修工事を計画、近日着工の予定である。

新たに横瀬弁付橋付近への排水路の整備は、周辺の農地の排水路と兼ねあってもあり、予想を超える降雨に対する補完的な排水機能を兼ねた設計が許容範囲になるかはつきり言えないが、事業採択基準の範囲内で最大限の努力を払う。

国・県に対応を要請

町長

大隅沿岸の海岸保全基本計画に入っており、横瀬海岸の浸食や浜崖についても検討していただいております。総合的な海岸保全対策を強く要望しています。

技術的な方策を検討

町長

台風16号の接近により、高尾川流域一帯が冠水し、人家に浸水の被害が発生した。その原因は、水田の塩害防止用の招扉が、大潮と台風の強風・高潮が重なり扉が砂で埋没



横瀬海岸にできた浜崖

田は基盤整備を推進する